

平成27年度事業報告書

特定非営利活動法人 藤沢ラグビー蹴球倶楽部

1. 事業の成果

(1) 総括

当倶楽部の活動は特定非営利活動に係る事業に限定され、営利活動は行っていない。報酬を受ける役員、給与を支払っているスタッフ共にはいない、純粋な特定非営利活動団体である。特定非営利活動に係る当倶楽部の平成27年度事業活動について、以下の通り報告する。

当倶楽部の事業内容は、定款第5条に規定されているように、1) ジュニアラグビースクールの運営、2) ラグビークラブチームの育成・指導に係る事業、3) ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興・普及に係る事業、4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業、5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業となっている。また、神奈川県から「総合型地域スポーツクラブ」として承認を得、今後も、ラグビーフットボールを中心としながらもその他のスポーツ競技の振興・普及に係る事業にも取り組み、生涯スポーツおよび地域スポーツの発展に貢献していく。これらの事業全般につき、平成27年度は会員や関係者の献身的な活動により、下記の通りの活動を行った。

1) ジュニアラグビースクールの運営

ラグビースクール事業は、生徒数252名、登録指導員数64名にて運営し、神奈川県下でも有数の生徒数を抱えるラグビースクールである。毎週1回（小5以上は2回）の練習を定期的実施するとともに8月には富士緑の休暇村での合宿を行うなど、ラグビーを通じて青少年の指導・育成を行った。また、秋の県大会には小3～中学までのチームが参加し、県内のラグビーチームとの交流試合を行い、各学年とも所定の成果をあげた。

2) ラグビークラブチームの育成・指導に係る事業

神奈川県ラグビー協会に所属するトップチーム（湘南プレイボーイズ）は、毎週1回定期的に練習を行った。昨年の東日本クラブ選手権での成績を評価され、今季より、東日本トップクラブリーグに昇格し各都道府県を代表するクラブチームとリーグ戦を行った。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ&G）も毎週1回定期的な練習を行うとともに、スーパーリーグや日本選手権に継続して参加するなど、活発に活動しており昨秋行われた全日本タッチ選手権において、マスターズクラスで優勝を果たした。また今年はワールドカップに6名の選手が参加するなど活発な活動を行った。小学生からシニアまで、幅広い年齢層が一緒に楽しめるスポーツとして、今後も地域スポーツの振興に寄与していく。

シニアチームについては、定期的に練習するとともに、藤沢マスターズ大会等へ継続して参加している。

3) ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興・普及に係る事業

藤沢市ラグビーフットボール協会との協力のもと、藤沢ラグビーフェスティバルや藤沢市民大会への参加、中学生の高校ラグビーフェスティバルの参加等を行ったほか、未経験の子供を対象にしたラグビー教室を開催した。湘南プレイボーイズは県下の高校ラグビー部に出向き合同練習や技術指導を行った。また、タッチチームが主体となって小中学生大会を行うなど、ラグビーフットボールの振興・普及に努めた。

スポーツ吹き矢は定例の練習を行ったほか、9月には競技大会を開催した。また、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターの「スポーツと認知症の関連研究」への協力を行った。

4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係わる事業

ラグビースクールにおいては、恒例となる辻堂海浜公園を利用する団体による子供駅伝大会へ参加等、他競技団体と共に競技能力の向上を図った。また、全国ライフセービング協会の全日本選手権への参加等、他の競技団体との交流活動を行った。

5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業

地域活動として、ラグビーフェスティバルの開催、砂山市民の家の児童祭りへの参加等を通じ、地域との交流を深めたほか、海岸清掃活動を実施している。

また、震災発生時等有事の緊急ライフラインとしても地域に貢献できる「自動販売機」を平成26年9月に設置した。

そのほか、当倶楽部の運営に当たっては、以下の各部会を組織し、倶楽部事業の充実、倶楽部会員の利益拡大につながる諸施策を各委員会が中心となって推進している。

- ①運営企画部会（各施策のとりまとめ、各部会推進事項の相互調整を行う。）
- ②財務部会（財政基盤強化の施策検討、倶楽部資金の有効活用の検討及びこれらの具体的推進を行う。）
- ③地域活動部会（地域貢献ボランティア活動の検討と推進を行う。）
- ④広報部会（HPの運営、倶楽部会員増大を目的としたリクルート活動、倶楽部のPR活動、倶楽部会報誌の計画的発行を行う。）
- ⑤施設部会（クラブハウスの修繕・建替えの検討、グラウンド施設の充実の検討及び推進を行う。）

今後も引き続き、倶楽部会員内外の協力を求め、各部会のメンバーの充実を図り、事業の継続、発展に資するより積極的な運営を行っていく。

なお、施設部会を中心に進めてきたクラブハウス建替えについては、「スポーツ振興くじtoto助成金」の交付内定を受けたものの、諸事情により助成要件である年度内完成が困難となったため、交付申請を取り下げることとなった。今後も、クラブハウスを安心して使用できるよう、所要の対策を進めていく。

また、本年度からNOK株式会社が協賛企業となり、本倶楽部の活動に支援・協力を得ることとなった。

(2) 活動概要

1) ジュニアラグビースクールの運営

ラグビースクールにおける指導方針については、引き続き3年間継続・固定し、指導実施項目として昨年に引き続き、①共通目標の理解・一元化 ②年間練習計画の立案 ③月次・日々の練習計画のコーチ間における認識の一元化 ④練習成果の把握・レビューの実施 ⑤ミルキー〜ミニ〜ジュニアのパスウェイの見直し再確認という基本方針を通じて、チームを勝たせる指導を引き続き推進した。そして「シ

ンプル、反復、強弱、理解」をスローガンに掲げ指導に臨んだ。

指導体制は昨年に引き続き、スクール校長の下に、ジュニアクラス（中1、中2～3）、ミニクラス（小3～4、小5～6）、ミルキークラス（幼～小2）の5ユニットを基本に、各クラス統括ヘッドを置くとともに、各学年にヘッドと指導員とを配置し、ユニット内での指導交流や合同練習をできる体制とした。

コーチ養成については、県協会主催のスタートコーチ研修会やレフェリー講習会に積極的に参加し、各々資格取得にチャレンジしている。7月19日には安全講習会、1月9日にタックル時の事故防止を中心に指導者研修会を開催、多数の指導員が参加した。

ラグビースクールの活動については、4月12日の入校式以降、毎日曜日の午前中をラグビーの指導・練習日とし、小学5年生以上は土曜日にも練習日とした。その他にも競技能力の向上に向け、5月2日～4日には中学生と小6の春合宿を実施するとともに、7月24日～26日には例年通り中学生が菅平ジャンボリーに参加して各県チームと試合を行った。また、8月13日～16日には恒例の夏合宿を、山梨県富士緑の休暇村で実施した。夏合宿には小学3年生以上の生徒、指導員、OB、父母が参加し、厳しい練習と、隣り合う学年同士の試合、中学AチームとOBを中心としたチームとの試合等を通じて、ラグーマンとしての大きな成長を遂げるとともに、各学年を超えた班編成による共同生活を体験することにより、上級生は指導力を、下級生は協調性を身につける大きな機会となった。

9月からは小学校3年生以上は秋の県大会に臨み、小学生は12チーム、中学生はAチーム、Bチームと中1チームとで参加した。小学生のうち、小6の1チームが優勝を果たし、他の学年、チームもそれぞれに成長の跡を見せてくれた。中学生は、Aチーム（中3～2）は3位という結果となったほか、1月に近鉄花園ラグビー場等で開催された全国ジュニア・ラグビーフットボール大会に神奈川県スクール選抜として選手3名が参加し、堂々全国準優勝の輝かしい成績を収めた。

また、幼児～小2からなるミルキークラスも、県内各スクール主催の交流大会や県協会主催のミルキーフェスタに積極的に参加した。

2月20～21日には、昨年に引き続き神奈川県協会主催の第6回ミニラグビーファイナルカップが開催された。これはミニラグビーの集大成である小学校6年生チームを対象に、県内15チーム、県外7チームのラグビースクールの最強チームを決定するトーナメント大会で、当スクール小6チームは初日に1勝1敗して2日目にプレートトーナメントに出場した。当チームは、全勝しプレート優勝を果たすことが出来た。持てる力を十分に見せてくれて思い出に残る大会を全員で楽しんだ。また、3月6日にはラグビースクール卒業式を行い、第40期生17名の中学3年生が巣立っていった。

2) ラグビークラブチームの育成・指導に係る事業

神奈川県ラグビー協会に所属するトップチーム（湘南プレイボーイズ）は、ラグビースクールOBを中心としたチームであるが、全国クラブラグビー大会へ出場し、クラブ選手権を制覇することを究極の目標としており、仕事や子育てに追われる一方で週末に練習を重ねている。従来はラグビースクールOBが主体だったが、リクルート活動の成果もあり、近時OB以外のラグビー経験者やトップリーグ経験者の加入によって選手層に厚みが増し、かつチームプレーの徹底とコンビネーションの意識統一や個々の技術スキルの向上を図ってきた。

また、様々なカテゴリーのチームが参加する県下、県外を問わず各セブンス大会に積極的に参加し、15人制と異なるランニングスキルの向上を図った。今季より、東日本トップクラブリーグに昇格し各都道府県を代表するクラブチームとリーグ戦を行ったが、強豪クラブが多いだけに1勝5敗と負け越しと

なった。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ&G）は、神奈川県でのタッチラグビー普及の基礎作りを推進しており、他のチームと交流を図るとともに、指導的な立場も確立してきた。メンバーが日本タッチ協会の勉強会やレフェリー講習会に参加する等、活動が神奈川から日本レベルを視野に置きつつある。活動としては、毎週土曜日に定期練習を行うとともに、各地のタッチ大会に積極的に参加し、本年度も優秀な成績を収めた。日本代表セレクションにも7名のメンバーが挑戦。内6名が合格し、平成27年4～5月にオーストラリア・コフスコストで行われたワールドカップに日本代表として参戦した。

シニアチームは、定期的に練習を行うとともに、春秋の藤沢マスターズや藤沢市民大会、更に海老名他のマスターズ大会に積極的に参加した。また他ラグビースクールのシニアチームとの交流も積極的に行った。40才以上の指導員とタッチメンバーで構成されているが、若手の指導員も参加してメンバーが増加しつつある。

女子チーム（湘南スプリングス）の本年度登録選手は0となり、残念ながらチーム編成は出来なかったが、女子連盟行事に積極的に参加した。11月には女子連盟主催のガールズフェスティバル（熊谷ラグビー場、女子小学生も参加）等に参加することにより、各地の女子選手との交流を深めた。

3) ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興・普及に係る事業

本年度も藤沢市ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会等の主催するラグビーの振興と普及を図る活動に、積極的に参加、協力を行った。

藤沢市協会の主催する第34回藤沢市ラグビーフェスティバルが6月21日に秋葉台グラウンドで、9月6日には第35回藤沢市民大会が秋葉台グラウンドで開催され、当倶楽部からはラグビースクールの全学年が参加した。また、12月には横浜スタジアムで神奈川県ラグビーフットボール協会主催の運動会が開催予定であったが、雨天のため中止となった。さらに、2月13日には藤沢市内のショッピングセンターにおいて、茅ヶ崎ラグビースクールと共催で未体験者を対象としたラグビー教室を開催した。

トップチーム（湘南プレイボーイズ）は、ジュニアクラス（中1、中2～3）、ミニクラス（小3～4、小5～6）への練習相手や湘南工科大学付属高校および法政大学第二高校など高校へ出向き、練習相手や技術指導を行った。シーズン序盤である1月から6月においては、積極的に県外のチームと練習試合を行うなど、交流・振興を図った。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ&G）が主催する大会も増えており、交流大会、湘南大会などを主催し、ラグビーの振興・普及に努めた。

また、12月には神奈川県ラグビー協会より、当倶楽部から2名が永年にわたるラグビーの普及貢献に関わる功労賞が授与された。

スポーツ吹矢については、月4回辻堂砂山市民の家での定例的な活動をするとともに、9月には競技大会を開催し、同競技の振興・普及に努めた。

4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業

ラグビースクールにおいては、6月に中学生が高校ラグビー部フェスティバルへ参加したほか、辻堂海浜公園子供駅伝大会に参加するなど、他の競技スポーツ団体とともにスポーツ能力向上を図った。

5) その他スポーツを通じた地域活動

毎年恒例のラグビーフェスティバルを5月17日に開催した。本フェスティバルは、地域住民との交流やラグビーフットボールへの理解を深めることに効果があり、地域住民の参加者も多く、参加者の中から、ラグビースクールへの入校者も出て、ラグビーフットボールの振興普及に対して有効であるため、今後も継続して実施して行く。また、12月には地域交流の一環として辻堂砂山市民の家児童祭に参加し、スクール生徒による幼児への工作指導や焼きそば出店等の活動を行い、辻堂地区住民との交流を深めた。

6) NPO法人としての社会貢献活動や安全対策強化

平成12年にNPO法人化して以降、特定非営利活動法人格を持つラグビーチームとして、社会貢献活動への協力についても模索し、海岸清掃活動等を適宜実施した。

また、「乳がんの早期発見及び乳がん検診の啓発運動（ピンクリボン運動）」を推進しているNPO法人J. POSHの活動に協賛し、倶楽部としてピンクリボン運動のロゴマークをジャージに貼付する等、活動を継続している。

その他、安全対策の強化として、倶楽部としてAED（半自動除細動器）を購入し、心停止状態発生の緊急事態に備え、活動中常備することとした。

7) 広報活動の強化

倶楽部広報紙「ラグビー藤沢」を発行し、全会員、ラグビースクール生徒と父母、スクールのOB等に配布するとともに、倶楽部のPRや会員への迅速な情報伝達的手段としてホームページを開設している。

ラグビースクール生徒募集活動（リクルート活動）を常時展開し、春先にはリクルートパンフを作成して幼稚園や小学校で配布した。更に中学3年生卒業記念文集を例年通り発行し、卒業生の熱い想いを後輩たちに伝えた。

トップチーム（湘南プレイボーイズ）ではホームページのほか、SNS（フェイスブック）を活用し、チーム広報やリクルート活動を行い成果が出ている。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ&G）もホームページをフェイスブックと連動させ、チーム広報やリクルート活動に生かし、他チームとの交流も図っている。

(3) 本年度会員数、各事業登録者数

以上の活動を支える当倶楽部の会員数は、平成28年3月末時点で下記となっている。

正会員	135名
個人賛助会員	30名
法人会員	2社

また各事業活動の登録者数は下記の通りである。

ラグビースクール：	生徒数	252名
	指導員数	64名
トップチーム	：	41名
タッチチーム	：	25名
シニアチーム	：	40名

女子チーム : 0名
スポーツ吹矢 : 14名

以上

2. 事業内容

(特定非営利活動に係る事業)

事業名	事業計画	実施日時	実施場所	従事 実人数	受益対象者 範囲と人数	支出額 (千円)	活動実績と結果
1. ジュニアラグビースクールの運営(定款第5条第1号に係る事業)	1. 地域における4歳から18歳までの少年、少女を対象としたラグビーの技術的・精神的指導	毎日曜日 小5以上は土曜日も実施	辻堂海浜公園 秋葉台球技場 ほか	68名	4歳～18歳 237名	登録 330 用具1,122 グラント 44 保険 489	1. 計画通り実施し、初期目的を達成した H27.4～H28.3(除く8月) 計46回開校
	2. 中学菅平ジャホリー	7月	菅平高原	10名	中学生 40名	1,791	2. 菅平ジャホリーに参加
	3. 夏合宿練習	8月	山梨県 富士 緑の休暇村	45名	小3～中3他 140名	6,240	3. 計画通り実施し、初期の目的を達成した
	4. 他スクールとの交流大会参加	4～3月	神奈川県 神奈川県内	68名	幼児～中3 215名		4. 神奈川県ラグビースクール秋季大会等に参加した
	5. 中学3年生卒業式	3月	藤沢市	68名	中3 17名	264	
	6. コーチ、レフェリー、メディカルサポーター等指導監督者の育成プログラムへの参加	随時	神奈川県内	68名	68名	136	
	7. C級レフェリー資格試験	3月			2名	2名	7. 2名がC級レフェリー資格を新規取得
2. ラグビークラブチームの育成指導に係る事業(定款第5条第2号に係る事業)	1. トップチームの育成指導	毎日曜日	秋葉台球技場 ほか	45名	成人男子45名	703	トップチームは新規メンバーの強化を図り、東日本トップクラブリーグ、各大会参加
	団体関東ブロック 東日本トップクラブ リーグ	8月 秋	栃木 栃木県ほか	2名 50名	2名 50名		
	2. タッチラグビーチームの育成指導	毎土曜日	辻堂海浜公園	45名	45名	431	2. 一般市民の参加があり、ラグビー普及効果、市民への浸透効果をあげた。また、年間50回の練習と各大会で好成績をあげ、特に全日大会マスターズの部で優勝した。
	全日本タッチアップ 全日本大会	5月 11月	横浜市 東京都	24名 10名	24名 10名		3. 年間を通じ試合実施
	3. シニアチームの育成指導 交流試合	隔週日曜日 9月～2月	辻堂海浜公園 善行グラウンド ほか	25名	25名		4. 関東連盟主催の講習会やガールズフェスティバルに参加
第9回ガールズフェスティバル	11月	埼玉県	6名	15名	50		
3. ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興普及に係る事業(定款第5条第3号に係る事業)	1. 藤沢ラグビーフェスティバルへの参加	6月	秋葉台球技場	70名	約200名		1. ラグビースクール生徒が参加
	2. 藤沢市民大会	9月	秋葉台球技場	70名	約200名		2. ラグビースクール生徒、湘南PBが参加
	3. ラグビーフェスティバルの開催	5月	辻堂海浜公園	70名	約400名	92	3. ラグビーフェスティバルを開催し、スクール以外の子供達も含め地域との交流を図った
	4. ラグビースクール交歓運動会→雨天のため中止	12月	横浜スタジアム				3. 県下全ラグビースクールが参加
	5. ラグビー教室の開催	2月	藤沢市	40名	120名		4. 未経験の子供向けラグビー教室を茅ヶ崎ラグビースクールと共催
	6. タッチチーム						5. 小中学生を交えたタッチ大会等を開催
	第13回湘南大会(男子)	7月	辻堂海浜公園	40名	約100名	60	
	第13回湘南大会(競技)	2月	秋葉台球技場	40名	約120名		
	7. スポーツ吹矢	4月～3月	砂山市民の家	14名	14名	83	7. 月4回の活動と競技大会を開催
	8. 倶楽部広報紙の発行	3月	倶楽部事務所	4名	会員、生徒、OB	61	8. 広報紙を1回発行
9. HPの運営		倶楽部事務所	1名	会員、一般	3	9. 練習予定日等をアップ	
10. 中学3年生卒業文集作成	3月	倶楽部事務所	4名	会員、生徒		10. 中学3年生および父母、指導員で卒業文集を作成	
4. 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業(定款第5条第4号に係る事業)	1. 高校ラグビー部フェスティバルへの参加	6月	各高校グラウンド	5名	中学生約30名	20	1. 各高校ラグビー部のフェスティバルに招待され、参加した
	2. ミルキークラス地引網	5月	藤沢市	30名	幼児～小2 約80名	73	2. 近隣のラグビースクールを招いて、海岸での合同練習、地引網大会を開催
	3. 全国ライフセービング協会記念式典への参加	10月	藤沢市	1名			3. 全国ライフセービング協会の全日本大会に理事1名が出席した
	4. 辻堂海浜公園駅伝大会	2月	辻堂海浜公園	10名	小3～4約50名		4. 辻堂海浜公園駅伝大会に参加し、他のスポーツ団体との交流を図った。
	5. 辻堂砂山の家児童祭りへの参加	12月	藤沢市	10名	20名	25	5. 幼児への工作指導と焼きそば出店により、地域との交流を図った
	6. 地域清掃活動	4月～3月	藤沢市	50名	50名		6. 辻堂海浜公園周辺等の地域清掃活動を実施
	7. ピンクリボン運動への参加						7. ラグビージャージにピンクリボン運動のロゴマークを貼付
	8. AEDの常備						8. AEDを常備し、安全面の強化を図っている

決 算 報 告 書

平成 2 7 年 4 月 1 日～平成 2 8 年 3 月 3 1 日

1. 活動計算書
2. 貸借対照表
3. 財産目録
4. 注記

特定非営利活動法人
藤沢ラグビー蹴球倶楽部

活 動 計 算 書

(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

特定非営利活動法人
藤沢ラグビー蹴球倶楽部
(単位：円)

科 目		金 額	備 考
I 経常収益			
1 受取会費・入会金			
正会員受取会費	1,927,000		
賛助会員(個人)受取会費	90,000		
賛助会員(団体)受取会費	20,000		
受取入会金	8,000	2,045,000	
2 事業収益			
ラグビースクール生徒会費収益	3,440,000		
スクール夏合宿開催参加費収益	5,915,500		
菅平ジャンボリー参加費収益	1,546,000		
スポーツ吹き矢会費収益	78,000		
地域活動事業収益	36,400	11,015,900	
3 受取寄付金			
受取寄付金	170,000		
特別協賛金	1,080,000		
ラグビーグッズ受贈益	99,684	1,349,684	
4 その他収益			
受取利息	1,750		
貯蔵品処分益	15,566		
雑収益	46,973	64,289	
経常収益計			14,474,873
II 経常費用			
1 事業費			
用具費	921,761		
グラウンド使用料	44,640		
スポーツ保険料	489,950		
旅費交通費	0		
夏合宿開催費用	6,240,154		
ジャンボリー開催費用	1,791,803		
対外試合費用	153,430		
トップチーム活動費	703,008		
チーム育成費	533,000		
コーチ育成費	136,542		
タッチ活動費	436,131		
スポーツ吹き矢活動費	83,506		
ラグビーフェスタ開催他地域交流費	188,655		
卒業式諸費	264,522		
事業費計		11,987,102	
2 管理費			
電力料	47,065		
借地料	496,422		
旅費交通費	0		
通信運搬費	54,654		
事務消耗品費	237,069		
支払手数料	75,248		
広報活動費	451,445		
会議費	57,442		
慶弔・交際費	168,978		
雑費	277,598		
管理費計		1,865,921	
経常費用計			13,853,023
当期正味財産増減額			621,850
前期繰越正味財産額			11,370,279
次期繰越正味財産額			11,992,129

貸 借 対 照 表

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人

藤沢ラグビー蹴球倶楽部

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資 産 の 部		
1 流 動 資 産		
現 金 預 金	1,974,082	
貯 蔵 品	533,990	
ジャージー制作費引当預金	220,000	
流 動 資 産 合 計		2,728,072
2 固 定 資 産		
(1)有形固定資産		
什 器 備 品	3	
(2)投資その他の資産		
定 期 預 金	5,164,054	
倶楽部ハウス修繕費引当預金	3,600,000	
50周年記念事業費引当預金	500,000	
投 資 そ の 他 の 資 産 計	9,264,054	
固 定 資 産 合 計		9,264,057
資 産 合 計		11,992,129
II 負 債 の 部		
1 流 動 負 債		
流 動 負 債 合 計		0
負 債 合 計		0
III 正 味 財 産 の 部		
前 期 繰 越 正 味 財 産	11,370,279	
当 期 正 味 財 産 増 加 額	621,850	
正 味 財 産 合 計		11,992,129
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計		11,992,129

財 産 目 録

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人

藤沢ラグビー蹴球倶楽部

(単位：円)

科 目 ・ 摘 要	金 額	
I 資 産 の 部		
1 流 動 資 産		
現金預金		
現金 現金手許有高	335,948	
普通預金 横浜銀行辻堂支店	29,091	
振替貯金 辻堂西郵便局	1,609,043	
特定支出引当預金(ジャージ制作費) 横浜銀行辻堂支店	220,000	
貯蔵品(頒布用ラグビーグッズ・エンブレム等)	533,990	
流 動 資 産 合 計		2,728,072
2 固 定 資 産		
什器備品(倉庫棚)	1	
什器備品(救急用AED1台)	1	
什器備品(タッチ放送設備)	1	
定期預金 横浜銀行藤沢中央支店	5,164,054	
特定支出引当預金(倶楽部ハウス修繕費)横浜銀行辻堂支店	3,600,000	
特定支出引当預金(50周年記念事業)横浜銀行辻堂支店	500,000	
固 定 資 産 合 計		9,264,057
資 産 合 計		11,992,129
II 負 債 の 部		
1 流 動 負 債		
負 債 合 計		0
正 味 財 産		11,992,129

財務諸表の注記

I. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

個別法による原価法を用いています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品(20万円以下)については、取得年度において備忘価額1円を残し、全額費用処理しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

(単位 円)

科目	期首残高	取得	減少	期末残高
有形固定資産				
什器備品 倉庫棚	1	0	0	1
AED	1	0	0	1
ポータブル放送設備	1	0	0	1
合計	3	0	0	3

3. 特定資産及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況

(単位 円)

科目	期首残高	当期増加	当期減少	期末残高
特定資産				
シャワー制作費引当特定預金	220,000	0	0	220,000
倶楽部ハウス修繕費引当特定預金	3,300,000	300,000	0	3,600,000
50周年記念事業費引当特定預金	400,000	100,000	0	500,000
計	3,920,000	400,000	0	4,320,000
正味財産繰越勘定	11,370,279	621,850	0	11,992,129

4. 重要な後発事象

当法人のクラブハウス整備のため、toto助成事業に対し建設資金の一部の助成を受けるため、平成26年12月26日付で平成27年度スポーツ振興くじ助成金の交付申請を行ったところ37,455千円の助成の交付内定通知がありましたが、諸事情により助成要件である年度内完成が困難となったため、交付申請を取り下げることとなりました。

以上